重要

医薬品安全使用ニュース

コルヒチン錠の適正使用について

効能効果、用法用量：

〇痛風発作の緩解及び予防

通常、成人にはコルヒチンとして1日3～4mgを6～8回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。
発病予防には通常、成人にはコルヒチンとして1日0.5～1mg、発作予感時には1回0.5mgを経口投与する。
（※用法用量に関連する注意）
痛風発作の治療には1回0.5mgを投与し、疼痛発作が緩解するまで3～4時間ごとに投与する。
投与量の増加に伴い、下痢等の胃腸障害の発現が増加するため、1日量は1.8mgまでの投与にとどめることが望ましい。

〇家族性地中海熱

通常、成人にはコルヒチンとして1日0.5mgを1回又は2回に分けて経口投与する。なお、患者の状態により適宜増減するが、1日最大投与量は1.5mgまでとする。通常、小児にはコルヒチンとして1日0.01～0.02mg/kgを1回又は2回に分けて経口投与する。
なお、患者の状態により適宜増減するが、1日最大投与量は0.03mg/kgまでとし、かつ成人の1日最大投与量を超えないこととする。

概要

承認された用法・用量の範囲内ではあるものの、コルヒチンの1日量1.8mgを超える高用量投与後、死亡に至った症例が国内において報告されています※

死亡に至った要因として、高用量投与以外に高齢、肝・腎機能障害、CYP3A4又はP糖蛋白の阻害作用を有する薬剤との併用が関連している可能性も考えられています

※適正使用のお願い -コルヒチンの用法及び用量について-（髙田製薬株式会社 2026年2月）

注意すべきポイント

コルヒチンの1日量1.8mgを超える高用量投与は、重篤な中毒症状（胃腸障害、血液障害、腎障害、肝障害等）をきたす可能性があるため、臨床上やむを得ない場合を除き避けてください

●「痛風発作の寛解」の目的で本剤を使用した場合は、疼痛が改善したら速やかに中止してください
●患者が自身の判断で1日量3錠を超える用量を服用しないよう指導してください

肝臓又は腎臓に障害のある患者で、肝代謝酵素CYP3A4を強く阻害する薬剤又はP糖蛋白を阻害する薬剤※を服用中の患者は、コルヒチンの投与は禁忌となります

併用禁忌に条件があるため、オーダー時に
併用禁忌に関するアラートが表示されません

※コルヒチンの添付文書に記載がある代表的な強いCYP3A4阻害薬
又はP糖蛋白阻害薬
クラリスロマイシン、イトラコナゾール、リトナビル、ダルナビル、
コビシスタット、エンシトレルビル、シクロスポリン
（その他の薬剤は併用薬の添付文書で併用禁忌でないことを確認してください）

参考資料　添付文書、適正使用のお願い -コルヒチンの用法及び用量について-（髙田製薬株式会社 2026年2月）
https://www.takata-seiyaku.co.jp/medical/topics/hpj79b000000ahkd-att/t-3944_202602_id.pdf